

令和7年度 第1回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和7年8月6日（水）午後2時30分から午後4時30分まで
場所	尼崎市議会棟議員総会室
出席者	（委員） 渥美委員、庄本委員、田井委員、田中委員、中西委員、松岡委員、松村委員

■議事内容

1 開会にあたって

傍聴者の確認

2名

2 市長より挨拶

（市長）

尼崎市生涯学習審議会は、生涯学習プラザにおける事業その他生涯学習に関することについて議論する場となっており、委員の皆様にもご協力いただき、実施し始めて6年が経ちました。地域振興センター所長は各地域を振興する役割があり、大阪市でいうと行政区、東京都でいうと特別区の「区長」と同じ役割であり、これが大きくなって自治体の首長になっていくと考えています。尼崎市の場合は、地域振興という究極の目的を実現するための1つの手段として生涯学習（地域での学び）を進めています。そこで生涯学習プラザを地域振興センターが担い、地域での活動を学びと共に育てていくことによって、地域が振興されていくと考えています。生涯学習プラザができて6年が経ちましたが、地域振興センターの目的は市役所の出先機関として事務を行うものではなく、職員が地域に出ていき、地域の方々と一緒に地域課題やその解決方策を考え共に活動していくプラットフォームという思いで業務にあたっております。これについての取組を委員の皆様と共有しご意見をいただき、業務について改善できるサイクルが構築できれば考えています。

のちほど、議題については各地域振興センター所長から報告がありますが、市全体の課題として、全地域で取り組む項目の1つに「外国人施策」がございます。昨年度に当市は外国人支援施策のパッケージを作成しました。これは、教育、保育、医療等といったあらゆる分野に関わる問題であるため、横串で全庁でまとめるべきとし、各施策をまとめました。まとめた問題意識の根本は、人口統計を見ていくと明らかにニューカマーの人々が増えていることです。これまでの外国人問題は、在日朝鮮人や中国残留邦人がメインの時代もありましたが、今は労働者不足に伴い経済目的で日本に来る外国人が多くなっており、このまま外国人が増え続けると様々な分断の議論が起きていくだろうと危機感を持っています。ただ、我々はそれについて善し悪しを言うのではなく、その実態を踏まえて、地域で外国人と生活をしていくにあたり、居住、医療、教育の問題や共

生していくためにどうすべきかについて、入国管理とは別の地域政策としてしっかり向き合う必要があると考えています。とりわけ、分断をできるだけ作らないようにするためには、地域の中で顔の見える関係を作り、どんな人がどこで働いていて、どんな問題意識で日本に来たのかコミュニケーションをとって把握することが、多文化共生のスタートであると考えています。そこで、各地域振興センターで実態を把握して、共生に向けた取り組みができないかということで、初めて「外国人支援施策」というテーマに地域振興センターで挑戦をしました。地域によって外国籍住民数に多少の違いがあり、各地域振興センターも戸惑いながら取組を進めてきたことを報告しますので、委員の皆様からのご意見をお聞きしたいと考えています。

防災に関する継続した取り組みに加え、地域特性を生かした様々な取り組みもありますので、情報量が多くなりますが報告をさせていただき、今後の予算編成につなげていきたいと思っておりますので、本日は忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 地域政策におけるPDCA

(事務局)

【資料1】地域政策におけるPDCA

<資料説明>

4 令和6年度の地域課取組の外部評価について（審議）

(事務局)

【資料2】令和7年度地域別シート（令和6年度事業）

【資料3】地域振興センター事業一覧

【資料4】令和7年度地域政策本部連携調整会議

<資料説明・地域課取組の報告>

(1) テーマ『多文化共生に関わる地域での取組』

(委員)

全地区に質問します。小田地域振興センターの報告に「トラブル」という言葉がありましたが、地域から相談等があった外国人とのトラブルがあれば教えてください。

(中央地域振興センター所長)

具体的に外国人とのトラブルは聞いておりませんが、今年度に中央地区に日本語学校が2校開校し、外国人の地域住民が増えています。その中で、日本の生活（ゴミ出し、騒音、食事）でトラブルにならないように、日本語学校でも日本社会のルール等を教えていくという話も聞いており、地域課でもバックアップできないか考えております。

(小田地域振興センター所長)

夕食後に歌を歌う文化をもつ外国人がいます。グループで住んでおり、窓を開けて皆で大声で歌い、それが騒音という形でトラブルとなったと地域から聞きました。

(大庄地域振興センター所長)

報告の中でもお伝えしましたが、ゴミの捨て方の問題があったと聞いております。

(立花地域振興センター所長)

外国人とのトラブルの話は聞いておりません。

(武庫地域振興センター所長)

週末に武庫川河川敷に外国人が多数集まり、ルールを知らないだけとは思いますが、バーベキューをしていたこともあるようです。

(園田地域振興センター所長)

地域からトラブルは聞いていませんが、外国人との交流会では言語の壁を感じていると聞きました。具体的には、障害を持つ子どもがいるが、どんな障害を持っているか言葉で伝えることができない等です。

(委員)

各地域振興センターで様々な国をターゲットにした事業をされたと思います。事業実施にあたり、ターゲットに対して職員が事前にどのような準備（学びや体験）をされたか、また、準備を行う中で印象に残った、手ごたえを感じたエピソードがあれば教えて下さい。

(園田地域振興センター所長)

令和6年度は事業前の分析等はあまり出来ておらず、今年度に入りGIS等でデータを使い分析しました。その結果、園田地区内でも外国籍住民が多く住む地域が分かったので、その地域をターゲットに住んでいる外国籍住民が来やすい小学校を借りて、交流会を実施しました。分析を行う中で、ベトナム人が特に多いことが分かり、在留理由を調べると特定技能やその家族の滞在が多いことが分かりました。そこからターゲットを定め、まずはベトナム人が多い地域のお母さんと呼んで、お困りごとを聞く取組を進めています。

(小田地域振興センター所長)

「おむかいさんプロジェクト」については、外国人が参加しやすいテーマで開催するために、必ず実施する前月に若い方々の意見を取り入れてテーマを設定し準備しています。令和6年度末にはおむかいさんパーティーを開催し、実際にプロジェクトに参加された方に令和7年度はどんなテーマで行うのが良いか意見を聞くこともしています。

(中央地域振興センター所長)

「ベトナムママさんいらっしやーい」については、南部保健福祉センターに乳幼児健診

を担う地域保健課があり、そこでも外国人が増えているがコミュニケーションをとる時間を確保することが難しいという話を聞いたため、そのような人々をターゲットにした事業を考えました。実際行ったところ日本語を話せないベトナム人のお母さんが多数来られ、このような機会にニーズがあると分かったことが1点です。今後も繋がっていくために、中央地域課のInstagramやLINEグループを伝え、イベントの案内等の情報発信を行ったところ少しずつ繋がりが増えてきました。また、先ほどの報告にもございましたベトナム商会は人材派遣も行っており色々とツテがあると共に、大阪府にあるベトナム大使館を通じて発信すると広く情報が届きやすいという話も聞いたので、それらのツールの利用も検討していきたいと考えています。

(委員)

日本語教室は有料と無料のものがあります。その中で私が所属しているコスモスの会の日本語教室は、主に中国残留日本人向けの昼の部は無料、夜の部は有料となっています。なお、夜の部については一般市民のボランティアではなく、研修を受けた資格を持った人が指導にあたっています。日本語教室は有料であれば通うことが出来ない人もおり、事業所によっては授業料を支援している場合もあり気になっています。また、前述したように日本語教室は一般市民がボランティアで指導している場合もあれば、資格をもった人が指導している場合もある中で、日本語のスキルアップにも差が出てくると思いますが、それが顕著に表れていると感じることはありますか。

(園田地域振興センター所長)

日本語教室の受講料は、園田東生涯学習プラザで1月あたり1,000円、園田西生涯学習プラザで1月400円といった実費程度を徴収し、講師はほぼボランティアとして行っています。ただし、しっかりと語学を教えているというよりも、まずは来てもらい身振り手振りを交えたコミュニケーションを楽しんでもらっているというのが教室の実態となっています。語学教室になると料金や教え方も異なってくるが、そこについて地域振興センターとして関わってはいないです。

(立花地域振興センター所長)

日本語教室はまだ実施していないが、これから実施しようと考えており、サポーター養成も行ってきました。受講料は無料の予定で、しっかりと日本語を勉強するのではなく、まずはやさしい日本語から学んでいく形で実施を考えています。

(委員)

杭瀬や久々知周辺で建物からたくさん外国人が出てくるのを見たが、そこに日本語学校があるのか、また、日本語学校は市内にどれくらいあるのか教えてください。

(小田地域振興センター所長)

杭瀬にはAMA日本カレッジがあります。

(中央地域振興センター所長)

国道2号線沿いにZEROという日本語学校が令和7年4月にオープンし、西難波にも10月頃に別の日本語学校がオープン予定となっています。

(委員)

そういった学校に通われている方たちが全員地域住民とは限らないが、その人たちと今後に繋がりを持っていく予定はありますか。

(中央地域振興センター所長)

中央地区の日本語学校は学校の近くに学生寮があり、近隣に住んでいるので防災や地域のイベントを案内しながら、学生と地域の交流を進めたいと考えております。

(委員)

塚口にある日本語学校の方から、イベントがあれば教えてほしいとよく言われます。イベント等の情報を求められているので、SNS等を通じて市内で開催されるイベント情報等が多言語で発信できれば良いと思います。

また、日本語学校に通う外国人の中には家財道具が揃っていない人もいますので、不用品交換やチャリティーショップに繋ぐことで交流が生まれていくのも良いと思っています。そのほか、定期的に日本の家庭料理を地域の方と外国籍住民で作るといった、多文化食堂のようなイベントを開催すれば外国籍住民も参加しやすいと思います。さらに、そこで、キーパーソンと繋がることができれば、そこからどんどん繋がりが広がっていくと考えています。

中央地域振興センターの報告でLINEグループを作成するとありました。各地区でもLINEのオープンチャットを作っても良いと思います。あわせて、外国籍住民にとってもコンビニは身近にたくさんあるので、市役所の外国人支援に関わる情報等について、QRコード等をコンビニに掲示すれば、外国籍住民とコンタクトがとりやすいと思います。

(委員)

尼崎市はダイバーシティについて、歴史的に意識してきた中で、必ずしも成功しなかった部分もあるので、それを踏まえてこれからどうしていこうかを考えていただいていると思います。その経験があるからこそ、市長からもお話があったように、外国人とトラブルがないような形で多文化交流が進めたいということも分かります。しかし、異文化の人と出会った際にはトラブルはあって当たり前です。例えば、食事後に大声で歌っているということは私もよく聞きますが、それに対して行政や警察が介入しても良いことはありません。トラブルが起こって、町内の人たちで考え、話して、少しずつコミュニケーションを図って、お互いの文化等をおむかいさん同士で理解し合う時間を待つということが大切です。

私は居住空間でのトラブルはこれまでからクリアしてきた課題であり、本当の課題は

働く場での人権侵害や教育現場と思っています。近年は小中学生の年齢時に急に日本に来て、日本語を上手く話せず、高校にも進学できず、今後日本でどう生活をすれば良いか悩んでいる外国籍住民の子どもがいます。こういったトラブルが発生したときに、生涯学習プラザがかけこめる場であってほしいです。すぐに行政が対応するのではなく、地域住民や生涯学習プラザの職員や活動団体がまずは受け止めて、多文化共生の応援団を増やしていくような場になれば良いと思っています。

地域振興センターでは面白い取組も多く、過去10年間でどんな取組を行ってきたかも見ながら、今後の展望も考えていってほしいです。異文化の人が来ても、その人を受け止めて、その人と共に自治が生まれていくような地域になれば良いと思いました。

人権侵害系のクレームを外国人から受けたり、間接的に聞いたことはありますか？

(中央地域振興センター所長)

特にそういった話を聞いたことはありません。

(委員)

そうであれば、事業所、会社の社長、学校の先生、こども食堂の関係者が人権侵害系の問題に詳しいので繋がっておくべきです。これまでのネットワークを利用し、外国籍住民が住みやすい環境になっているのか確認しながら、トラブルがあれば地域住民も一緒に考えて、多文化共生について一緒に考えていきたいと思います。それをするには、常にアンテナを張っておかなければなりません。

(委員)

各地域で防災については色々行っているが、災害時にはその人権についての綻びが表れやすくなっています。要するに「日本人が大変な時にどうして外国人まで」となってしまうことがあります。日頃はそんなことを言わない人が言うのが災害時です。大阪北部地震の際に、大阪大学で日本人はこれくらいであれば大丈夫と思って逃げず、留学生だけが避難し、外国人が地域にたくさん来て地域住民が困り出すということがありました。なので、災害時にも対応できるよう、地域住民の方々にも外国人に関する知識を知っておいていただくことも大切であると思います。

一つお聞きしたいのですが、SNSでコミュニケーションをとる際に、自動的に日本語を中国語に、または逆をしてくれる機能がありますが、今まで話に出たSNSでは、そういった機能はあるのでしょうか。

(委員)

翻訳アプリ等を使用すれば可能であると思います。

(2) テーマ『フリー項目』

(委員)

各地域で様々な取組をされていますが、立花と園田の地域振興センターは継続的な取組の内容、それ以外の振興センターについては新しい内容の報告がありました。中央、小田、大庄、武庫の地域振興センターにおかれましては、今まで課題と思って継続的に取り組んできたことについて、さらに今後も継続して取り組んでいくものはありますか。

(武庫地域振興センター所長)

武庫川周辺阪急新駅の取組については継続して行っております。どの時期に重点的に取り組むべきかと考え、早めから取り組むことで地域課職員の意識付けにもなると共に、地域住民との距離も縮めていく必要があるため、取り組みを始めています。

阪神特別支援学校分教室についても、卒業後に居場所がないという問題は昔からありました。阪神特別支援学校は西宮市にありますが、生徒は尼崎市の子ばかりです。中々、情報が届かないということもあり、どうにかして地域の居場所をつくりたいと考えておりました。そのような中で、国の制度も使いながら特別授業ということで先生方も委嘱され任用された状態として取り組んでいます。こちらは始めたばかりなので、今後も頑張っていきたいです。

(大庄地域振興センター所長)

協働型公園については令和4年から始まったと言いましたが、実際は平成18年頃からの話となっています。それから紆余曲折あり、令和4年頃になり前に進み始めたところです。これは公園が完成して終わりではなく、協働型公園として地域の皆様と協力し、何でもできるような公園に育てていきたいと考えております。その中で、我々がどう支援していくかは難しい課題です。全国的に協働型公園を官民連携で進めている中で、途中で頓挫している例、上手く進んでいる例があるので、様々な事例を見習いながら進めていきます。あわせて、今回は現在の南の口公園を移設する形になるので、現在の南の口公園は更地にして売却するのか等についても、地域と話し合いをしながら行っていく必要があるため、今後も5年、10年とかかかっていくと思っております。

(小田地域振興センター所長)

阪神タイガースのファーム施設ができるという段階から、地域より賛成、反対の意見があり、紆余曲折を経てここまできました。小田の南部地域からは「北部地域ばかり」という声も聞いていたので、阪神タイガースの球場という非常にメジャーな場所ができましたので、こういったコンテンツを活かし、関係課と連携し、地域も巻き込んで進めていきたいと考えています。

(中央地域振興センター所長)

阪神タイガースのファーム施設については小田地区と同意見です。その他、中央地区には大物川緑地があり、大物駅の北側から長く広がっております。その中で、緑地を子どもの遊び場、地域交流の場、学びの場、健康づくりの場といった形で分けて整備を行う案が出ています。その中で、地域交流の場は薪能等といった何かきっかけがあって使うことも

ありますし、先ほど申し上げた高校生の軽音部の発表の機会として「DAIMOTSU GREEN Fes」といったイベントを実施して使うことも考えております。ただし、今回の「DAIMOTSU GREEN Fes」も多くの地域の方に協力していただき開催できましたが、音響設備を提供していただいた方から、出演しながらの準備は負担だったといった声もありましたので、今後もイベントを継続していくにあたり、その点をどうしていくか等については考えていく必要があります。

(委員)

「フリー項目」については、各地域振興センターで個性を出して進めている中で、根本的なことを聞きたいのですが、「フリー項目」というものがあってそれぞれテーマを選んだのか、自分達の選んだテーマが「フリー項目」であるとしたのかをお聞きしたいです。つまり「フリー」が何からの自由なのか、例えば、市の施策テーマからか、住民のニーズからか、行政の要求からかなのか、どのイメージでそれぞれテーマを選んだのかということをお聞きしたいです。そのような見方をすると、何をチャレンジしているかが見えやすくなるのではと思っています。

あわせてもう一点お聞きしたいのですが、園田地域振興センターの里芋について、3月10日を里芋の日にした理由は何でしょうか。

(園田地域振興センター所長)

里芋の日については、3月10日で「さ(3)」「と(10)」と読めるからです。

(委員)

3月11日にして「さといい日」とし、東日本大震災に関するマルシェに里芋を売り出すのが良いのではと思いました。

そういった場所に里芋を売り出して「あなたたちのことも忘れていませんよ」「関西に来たときには、ぜひ尼崎にも来てください」といった形で行うのも良いと思いました。

(中央地域振興センター所長)

令和6年度に各地域振興センターが取り組むテーマとして、3つテーマを決めることとなりました。1つ目は先ほど発表した「多文化共生」についてです。2つ目は「防災」で、令和5年度から引き続きテーマとしてあげております。3つ目が「フリー項目」で各地域で課題となっていることに対して取り組んでいくことをテーマとしてあげております。

中央地域振興センターは、近々の地域課題かつ今後に進めていきたいこととして、先ほど発表したテーマの設定を行いました。「フリー」が何からの自由かということ、「多文化共生」「防災」以外で、各地域が力を入れて取り組むべきであるかという意味となっております。

(委員)

指定項目からの自由といった意味でしょうか。

(委員)

真面目さからの自由かと思いました。

(小田地域振興センター所長)

プラザから飛び出した、プラザだけではないといったイメージであると思います。

(市長)

地域振興センターの組織としての地域との付き合いの仕方は、大学の自治に近いところがあると思っております。市役所は官僚組織であるが、地域振興センターというのは、地域の特徴があり、その地域に住んでいる住民とコミュニケーションをとりながら、何かしらの取組がなされています。「市役所〇〇局」とは違い、地域との対話によって成り立っている取組が中心となっており、官僚組織とは異なる、地域自治の世界のプラットフォームとして、地域振興センターがあると理解しています。

ただし、その中で、地域振興センター所長が、地域自治の世界であるため、本庁とは関係ありませんとするのではなく、本庁と地域振興センターの共通の課題は何であるかを考えたとき、まず上がってきたのが「防災」の問題になります。次にあがってくるのが、近年の課題である「外国人施策」で、これは地域で生活に根ざした問題なので、しっかり考えないといけないとなりました。

「フリー項目」については、本庁と連携はしながらも、各地域で課題はあるということで、それは例えば「阪神タイガース2軍球場は市のまちづくり課題でもあり、中央・小田地域の課題でもある」「大庄地区にある協働型公園については、市の新しい公園・広場の使い方について、地域と連携しながら行う」「武庫川周辺阪急新駅については、市全体の課題でありつつ、地域との共生を考えて本庁側と武庫地域課と連携しながら行う」といったことがあると思います。それぞれの地域で課題があり、それについて本庁と連携しながら行っていくということが、「フリー」という名前が適切であるかは分かりませんが、何かからの自由というより、それぞれの地域に応じた課題に取り組んでいくといった意味となっています。これは、本庁と各地域振興センターの共通の政策であり、この3つのテーマ以外にあらゆる取り組みを地域振興センター、生涯学習プラザで主体的に行っていますが、これが本当の意味でのフリーの取組ではないかと思っています。私と各地域振興センターが同じ理解であるかは分かりませんが。

(委員)

生涯学習プラザは、地域の総合教育や住民の自治を信頼するということをベースに、地域振興センターの職員が伴走支援を行うといった拠点ですよね。市長が仰ったとおり、フリー項目というのは、それぞれの地域課題に応じて、どのようなことを行っているかということだと思っております。ただ、その際に社会的課題にどうしても誘導しがちで、それを意味あるものとして支援しようとしてしまいますが、地域住民が生涯学習プラザ等に遊び心を持って、集まってワイワイしながら、我が物意識を持つことが一番大切だと思います。

す。古臭いかもしれませんが、住民が地域での当事者性を高めてくれるような仕掛けとして課されているという理解です。それを意識した上で実践することが大切だと思います。

(委員)

今回は地域振興センター所長から、多文化共生とフリー項目に分けて報告を聞きましたが、それぞれにそれぞれの要素を入れていくことがより良いと思いました。

5 令和8年度地域別シート（令和7年度事業）のテーマについて（審議）

(事務局)

【資料5】令和8年度地域別シート（令和7年度事業）のテーマ
＜テーマ及び地域課取組の報告＞

(1) テーマ『フリー項目』

(委員)

園田地域の報告にあったAI オンデマンド型交通について、交通弱者に対して新しい公共交通ができれば素晴らしいと感じており、一緒に考えていければと思っております。立花地域の中高生の活躍できる場の話を聞いて思ったのですが、今後に中学のクラブ活動自体が委託されて無くなるという話を聞いていますが、尼崎市ではまだ中学校のクラブ活動はありますか。

(市長)

今はありますが、将来的には委託する予定となっています。

(委員)

まだあるんですね。大庄地区の各中学校でやんちゃをする子が増えていると聞きました。それはクラブ活動の委託が要因と思ったが、違う問題からきているんですね。

(委員)

中央地域振興センターの発表で、ユース世代のやってみたいことのニーズ把握という話が出ましたが、私がユース世代と一緒に色々と実施する中で、ユース世代の経験や知識の差から、それぞれが「やってみたい！」と思うきっかけも様々と思っています。例えば、世界各国でやっているユース世代の取組等を知ることによって「これを自分もやってみたい！」と思い、紐づくこともあります。ニーズの把握をする際に何をしたいかを聞きすぎていて、最初はそもそもまだイメージが湧いていなかったり、自分の知識とリンクしていないことも多いと思います。これは大人の場合もあると思います。どんな町にしたいと言われた時に、自分の中で何となくモヤモヤしているものだけがある状態で、その際に世界中の色々な町の制度を知ることによって「たしかにその制度いい！」となることもあると思います。日本中で様々なユースの取組は行われているので、それをみんなで共

有体験することで色々な発想がユース世代からも出てくると思います。

あまチャレなどの制度がありますが、外国籍住民向けに、そういった制度を母国語でお知らせできれば良いのではとも思います。外国籍住民の中には、そういった制度があることを知らなかったり、情報が届いていない人も多いと思います。外国籍住民の中にも声をかけると、「そういった制度があるのであればやりたい！」という人も多いと思います。尼崎市が行っている市民が取り組めることを、外国籍住民にも知らせることができれば良いと思います。

(委員)

今の話は全てに通じると思います。

(委員)

田能の里芋の話がありましたが、尼崎には他にも「尼いも」や「富松一寸豆」等が作られています。地域ごとに農作物をパッケージ化してアピールしてはどうでしょうか。

(武庫地域振興センター所長)

田能の里芋については、田能地域に限定したものになるのではと心配していた部分もありましたが、武庫地区の農家から田能の里芋を作るという話もあり、田能地域でなくとも栽培できそうなので、エリアを広げてブランディングしていければ良いと思っています。

(園田地域振興センター所長)

どのエリアまで田能の里芋とするかの議論については、田能の里芋を栽培している団体間でも議論になっております。最終は団体が決めることになるので、武庫地域振興センター所長の発言の通りになるかはまだ分かりません。

(委員)

地域振興体制の再構築として地域振興センターで取組を始めてから6年が経ち、地域振興センターを経験した職員の本庁への人事異動により、本庁と地域振興センターのやり取りが活発となり、市役所全体が変わっていくのではないかと考えています。次回はそこをふまえ地域がどう変化したかの検証した結果が聞ければと思います。

6 閉会・感想

(委員)

令和5年度から委員を2年間やらせていただきました。地域での多様な取組や地域に根差した取組は、コロナ禍を経て実施して発展してきたのではないかと思います。様々な外国籍住民の方が尼崎を選んで住まれている中で、特に私が関わっている中央地区は人口減や高齢化の問題がありますが、外国籍住民も地域の担い手になってもらうことを期待しています。そういった中で、日本人側が外国籍住民の方々を地域住民の一員として迎え入れ

ると共に、他国の文化を理解していく必要があります。地域振興センターと連携して色々
と行わせていただいておりますので、引き続き一緒に尼崎市のまちづくりをできればと思
っております。

(委員)

令和8年度のフリー項目について、また実施内容の報告を聞くことを楽しみにしていま
す。市長が先ほど「フリー項目」は本庁と連携しながら行っていくが、それ以外にも地域
に課題があるということも仰っていたので、他に地域課が行っている独自の取組や課題は
どんなものがあるのか今度はお聞きできればなと思っております。

(委員)

本日の報告をお聞きして、地域振興センターの方々が住民に寄り添って様々なことを行
っていただいていることが分かりました。令和7年度のフリー項目についてですが、私は
小田地区に住んでおり、小田地区の南部は高齢過疎化が進んでおり、空き家は身近な問題
であると感じています。また、大庄地区の協働型公園については、こういった形で進めて
いくのか楽しみにしています。それぞれの地区で地域性があり、心配もあるが楽しみでも
あるので、住民として一緒に協力してやっていきたいと思っております。

(委員)

私は園田地区で居場所づくりの事務局をしているのですが、ベトナム人の親子が自分の
家のおもちゃを持って遊びに来ます。私であれば何かあれば地域振興センターへ相談に行
こうと思いますが、事務局内でもまだその意識でない人もいます。他の委員の発言にあり
ましたが、自分の町の課題を我が事にするキーパーソンを増やしていくことが大事で、地
域課題を地域の皆で共有するという場がもっと増えれば良いと思っています。例えば、子
供食堂ネットワークがありますが、そこで外国人について地域の方々と対話することも良
いと思っております。また、コープには地域の様々な活動をしている方々が集まる「地域
つながりミーティング」がありますが、ここでも外国人に関する話は上がっていない状態
です。ですので、こういう集まりに対して、町としては今こういった課題を持っていると
投げかけて、一緒に考える人を増やしていくことが良いではないかと思っております。

(委員)

私は30年前から尼崎市に関わらせていただいて、その頃は公民館というものが多くあ
りました。30年前に初めて私が尼崎市に来た時に、人間くさいエネルギーを持った地域
住民や職員の方々がいました。その際に、実際に公民館を見たり町を歩いたりしたときに、
人がわいわいしている光景にたくさん出会いました。こういったインフォーマルな場での
人々との様々な出会いがこれまでの尼崎市を作ってきたと感じました。また、地域によっ
て差はありますが、色々な人が泣いたり悔しい思いをしたりして、そういったものをエネ
ルギーに変えて、この市はできていったと思っています。社会教育と地域振興を連動させ
て1つのコミュニティづくり、社会の仕組みづくり、産業づくりへと全部連動させていく

といったことを、ここ数年で尼崎市が先陣を切ってやってきたと思っています。

この生涯学習審議会に出席して、まず、僕の尊敬する渥美先生が委員をされていることと、歴代の市長がみんな来てくださるという審議会は初めてで驚きました。地域や学び方や接し方、出会い方等が変わっていく中で、地域振興、産業振興、人権、防災等の様々なテーマを複合的に混ぜながら活性化させていくというパワーに、私は感動しましたし、少しでもそれに関わらせていただいたことがありがたかったと思っています。

(委員)

西宮市のコンビニの店長からお聞きしたのですが、重度障害者や外国籍住民の方がコンビニに来て困っていたら、マニュアルでは警察に連絡するとなっております、今までは警察に繋いでいました。しかし、社協の方と知り合ってから、社協に連絡することで福祉の支援に繋げることができたと聞きました。尼崎市では、地域の困りごとが警察にいつている気がします。可能であればコンビニと繋がってください。警察と市民が分断されている部分があると思います。その西宮市のコンビニ店長はとても面白くて、お願いすればお話を聞くこともできますし、こういったコンビニの店長と繋がりをつくるのも良いと思いました。また、私自身もアイデアがたくさん浮かんでくるので、また連絡してもらえたらアイデアを一緒に考えます。

(委員)

ありがとうございます。それでは審議会を閉会します。本日はありがとうございました。